

明治大学文学部文学科 文芸メディア専攻映画会

2025 年 11 月 14 日（金）事前登録不要・無料

追悼上映

友愛の人と呼ばれ、
眼差しの人と呼ばれ、
作家の魂のアンカーと呼ばれ、
最後の無頼派と呼ばれた編集者

editor.O

オー

世に出でし文人指にあまるさへ誇ることなし酒よりほかに（中川昭「百代」より）

監督：川口ひろ子、ナレーション：高瀬がぶん・熊井貴子、音楽：吉本直紀

制作：信州の老編集者「本の寺子屋と係る」制作委員会

長田洋一（おさだ・よういち）1944 - 2025

立松和平、中上健次と苦楽を共にし、俵万智を見つけ出し、辻井喬を、松下竜一を世に送り出し、書き手たちを励まし続けた1979年から2002年までのしごとの歴史と、2003年以後、病を抱えながら続けた「本の寺子屋」など、本にかかわる長田の活動の記録と証言。2025年8月末に亡くなるまで貫かれた、長田洋一の「本」を愛する姿を追ったドキュメンタリー。（80分）

11月14日（金）：明治大学アカデミーホール（アカデミーコモン3階）

JR中央線・総武線・東京メトロ丸の内線 御茶ノ水駅、東京メトロ千代田線 新御茶ノ水駅、都営地下鉄三田線・新宿線・東京メトロ半蔵門線 神保町駅から徒歩。

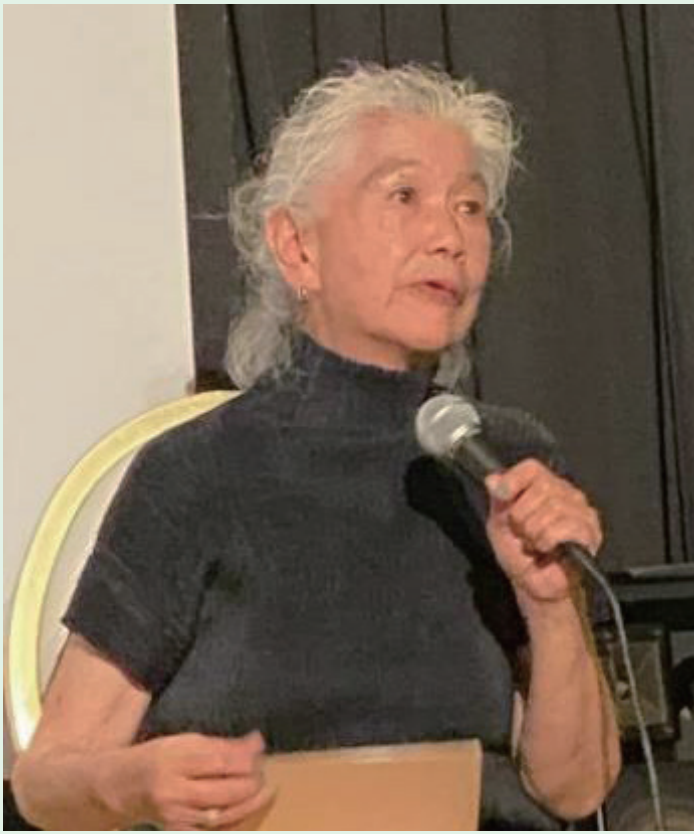
17:10 上映（開場 16:50）

18:40 川口監督・アフタートーク（19:30 終了予定）

明治大学 東京都千代田区神田駿河台 1-1

問い合わせ先→ bunmeeigakai@hotmail.com





【川口ひろ子監督 コメント】

長田洋一は俵万智「サラダ記念日」、中上健次「千年の愉楽」、立松和平「遠雷」を世に送り出す一方、文芸誌「文藝」編集者としては、当時考えられないことでしたが、ジャンルを超えてノンフィクションを大切にしました。松下竜一の仕事を手助け、「松下竜一 その仕事」全30巻等を生み出します。また優れた作品が管理費節約のため

断裁されていくのを悼み、多くの個人著作集を作ります。当時見えていた読者が見えなくなり始めた出版界は、大きく指針を経済に切り替えます。その中での長田洋一は経済と使命との狭間に戦い続けました。

幼少期の結核が元で17歳で片方の腎臓を摘出した長田は、度重なる病により2002年退社。東京と安曇野を行き来しての治療生活に区切りをつけて、安曇野に居を移します。長野の出版社の仕事に係る傍ら、「長田ゼミ」「哲学カフェ」を開催します。塩尻市立図書館創設の目玉企画「本の寺子屋」をプロデュース。中央から地方へ文化と出版の架け橋を作りながら、地方から発信することを次の視野に持つことになります。

この映画は、戦後の出版史の一つとしてみることもできます。同時代を生きた人には共感する部分が多いかもしれません。また地方と中央を考える手がかりになるかもしれません。経済と心の豊かさの均衡が激しく問われている今、長田の姿が細やかな灯となってくれることを願っています。

【収録インタビュー（出演者）】

長田洋一（本人）、福島泰樹（歌人）、正津勉（詩人）、山口泉（作家）、佐藤直子（東京新聞論説委員）、高橋博（穂高ひつじ屋店主）、窪島誠一郎（戦没画学生慰霊美術館 無言館館主）、塩尻市立図書館館長・図書館員ほか。